

## 燕市ってすごい

校長 武井 正明

12日は「Good Job つばめ推進事業 第1回実行委員会」に出席してきました。

この事業は燕市が、市を挙げて市内中学生のために、職場体験の受入れ体制を整備して、キャリア教育を進め地元愛を育成しようという、素晴らしい取り組みです。

これは、私が昨年吉中に赴任した時、大きな驚きを覚えたバックアップ事業です。

その議長を務められた燕市商工会議所の細川哲夫副会頭が冒頭に、今の経済情勢を第一次世界大戦当時のアメリカが、第二次大戦を経てどのように立ち位置を変えたのか。またそれに関わる現在に至る状況と日本との関係を、グローバルな視点で、私たちに実に分かりやすく、サラッと話ししてくださいました。

総ては私たちの生活に繋がってくるのですね。日本経済に暗い私は、興味深く新鮮なお話に、たいへん勉強させていただきました。

その議事や意見交換でも出てきたのが、職場体験の製造業で、真っ黒になって作業をしている姿を見てもらった方がいいのか、スマートに洗練された仕事をしている姿を見てもらった方がいいのか、どちらが現代の子どもたちに魅力を感じてもらえるのか、なかなか迷うところである、というものでした。

私は、製造業の魅力はやはり出来上がった作品そのものではないかと意見を述べました。モノづくりの過程は、煤まみれになる工程もあるでしょうし、信じられなくらい機械化された工程もあるでしょう、そのどちらも興味深く、魅力的だと思います。

実行委員会は1時間ほどのものでしたが、非常に有意義な時間でした。地元燕市の有力者の方々が智恵を出し合いながら、若い可能性をいかに未来の地元に、多く根付かせようかと、日々腐心されているのが伝わってきました。

皆さんは昨夜、ご覧になりましたか？

昨日の『鶴瓶の家族に乾杯』は燕市でした。番組中、創業200年以上の老舗「玉川堂」のやかんや茶器が紹介されていました。

あの重厚な茶器を見ると「あの茶器はどうやって作るのだろう？あの茶器から出てくる白湯はどんな味がするのだろう？」と興味が湧いてきます。でも10万円以上じゃ、手が出ません。85万なんて超高価なものもありました。

世界に誇れる燕市ってすごいですね。

前編の放送は終わりましたが、後編は来週月曜日。今度は吉田が出てくるかなあ…ワクワクしながら見せてもらいましょう。

